

(様式第2号)

地域振興推進費自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	1	課題区分	C	令和8年1月28日
横断的な課題	若者・女性から選ばれる伊那谷の未来を創る「ひと」づくり					上伊那地域振興局
地域重点政策	伊那谷の未来を創る「ひと」づくり					
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	林務課
事業名	地域の先端技術産業を学ぶ林業体験学習				電話	0265-76-6825(林務課)
					E-mail	kamichi-rimmu@pref.nagano.lg.jp
事業の概要等	目的 (目指す姿)	先端技術の体験、林業大学校生から授業・実習の様子や就職先の紹介、森林・林業に関する様々な仕事についての紹介等により、若者の森林・林業関係への就業促進を図る。				
	現状と課題	カーボンニュートラルによる脱炭素社会及び循環型社会の実現に向けて主伐・再造林の取組が始まる中、放置された森林の整備を進める「森林経営管理制度」が令和元年度から始まり、「林業」は担い手の確保、育成が急務である。しかし人口減少や高齢化、就業後の定着率の問題等により、林業就労者の確保は大きな課題である。 地域産業として林業を永続的なものにするためには関係人口の増加が必須であり、進路を決める過程にある高校生に、広く「森林・林業」を知ってもらう必要がある。				
	内容 (変更後の内容)	○林業体験研修会の開催 次世代を担う上伊那農業高等学校里山コース(2年生)を対象に、高性能林業機械による伐採等の実演やシミュレーターによる疑似操作体験、林業大学校のミニオープンキャンパスを行う。また、苗木の生産から森林整備、伐採搬出、市場等への出荷、加工、木材の様々な利用形態や最近脚光を浴びている木造中高層建築、森林の公益的機能による様々な恩恵や森林病虫害対策、野生動物保護管理、防災に強い山づくりや治山林道と、大変包括範囲の広い「森林・林業」について、林業普及員による講演を行う。 実施日 : 令和8年1月15日(木) 実施場所: 上伊那農業高等学校				
	事業期間	令和8年1月 ~ 2月				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考		
	林業体験研修会	高性能林業機械による伐倒の見学、シミュレーターを活用した疑似操作体験、林業大学校によるミニオープンキャンパス等	143,000	ハーベスタ伐倒実演 143,000円		
	合計		143,000			
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	アンケート結果で就職先や進学先として「森林・林業や木材関係を考えてみたい」との回答		55%	70%	◎ 達成 ○ 一部達成 ○ 未達成	
事業実績・成果	里山コース2年生の全20名が参加し、研修後のアンケートで「森林・林業に関心を持った」生徒が90%、進学や就職の選択肢の1つとして検討すると答えた生徒が70%となった。 ハーベスタシミュレーターや労働安全用のVRチェーンソー体験、高性能林業機械による伐採等のデモンストレーションや林業大学校ミニオープンキャンパスへの関心が高かった。また、3名の生徒が将来の進路として森林・林業系学校への進学を希望した。 振興局からは気候変動や地球温暖化の抑制に期待されている「林業」の魅力ややりがい、森林・林業に関する様々な仕事、木造中高層建築の普及による都市の木質化等についてわかりやすく説明した。					
今後の方向性	引き続き森林・林業の担い手確保に向け、上伊那農業高校に働きかけていく。					

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	2	課題区分	C	令和8年5月1日
横断的な課題	若者・女性から選ばれる伊那谷の未来を創る「ひと」づくり					
地域重点政策	地域産業の担い手の確保・育成					上伊那地域振興局
実施機関	伊那建設事務所		担当課	所属	整備課整備第二係	
事業名	建設産業の魅力を実感プロジェクト事業 ～高校生が行う身近な公共施設整備体験～			電話	0265-76-6852 内線2443	
				E-mail	inaken-seibi@pref.nagano.lg.jp	
事業概要	目的 (目指す姿)	・官民協働による建設産業への理解拡大と次代を担う人材確保に向け、建設系学科高校生等を対象とした就労促進及び若手技術者の育成につなげる取組として、生徒に対して建設産業の魅力ややりがいを実感出来る機会を設け、建設分野への就職・進学者数の増加を目指す。 (R7里山コース21名の20% 4名)				
	現状と課題	・本事業では上伊那農業高等学校コミュニティデザイン科3年生の生徒を対象に、伊那市春日公園の噴水跡地改修工事をフィールドとして、建設関係団体の技術者と協働で計画から施工までを体験する機会を提供している。第一線で活躍する技術者と作業を共にすることにより、仕事の内容のみならず魅力ややりがい、労働条件等について生徒が情報を得る場となっている。 ・令和3年度に生徒が改修計画を立案。令和4年度から令和6年度の3年間でインターロッキング舗装(約550㎡)による広場整備を完了させた。(R4年度9回、R5年度7回、R6年度6回)。本年度は建設技術者と協働で木製ステージ製作し、広場整備の完了を目指す。 ・事業実施後のアンケート調査では、「建設産業の現状やもの作りの楽しさを実感できた」と建設産業への理解が深まったとの感想がある一方、暑い中での力作業に、働くことの厳しさを実感したとの感想も聞かれた。 公園整備を完成させ、建設産業(ものづくり)のやりがいや魅力を体験してもらえるよう整備完了イベントを開催し、達成感を実感してもらう。				
	内容 (変更後の内容)	【噴水広場跡地改修】 ・前年度までのインターロッキング舗装による広場整備に引き続き、長野県建築士会上伊那支部の建築士と協働で木製ステージを製作し、公園整備を完了させた。 ・建築士会の意見も取り入れ、昨年度の2月から新3年生を対象に木製ステージの設計に取り組み、生徒が早い時期から建設産業を就職・進学先として認知するよう取り組んでいる。 ・内容 : 公園噴水跡地改修工事(木製ステージ製作) ・実施日時: 5～11月の計10回 9:00～12:50(完成イベントを含む) ・対象者 : 上伊那農業高等学校コミュニティデザイン科里山コース 3年生 21人、2年生 20名 ・実施場所: 伊那市 春日公園内および上伊那農業高校内 ・協力等 : 伊那市、長野県建築士会上伊那支部、長野県建設業協会伊那支部、長野県測量設計業協会南信支部				
事業期間	令和7年5月		～	令和7年11月		
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考		
	木製ステージ製作	材木等購入	936,594	材木他		
	完成イベント	完成イベント材料購入	19,525	賞状ほか		
	合計		956,119			
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	上伊那農業高等学校コミュニティデザイン科里山コース3年生(21名)の建設産業への就職・進学者数		コースの20% (4人)	0人	○ 達成 ○ 一部達成 ● 未達成	
事業実績・成果	【実績】・伊那市春日公園の噴水跡地改修として、上伊那農業高校生徒が令和3年度に改修計画を立案し、令和4年度から令和6年度の3年間でインターロッキング舗装(約550㎡)による広場整備を完了。 ・本年度は最終年として建設技術者と協働で木製ステージを製作し、公園整備を完成させた。 【成果】・この事業を通して建設産業(ものづくり)のやりがいや魅力を体験してもらえるよう整備完了イベントを開催し、達成感を実感してもらった。 ・精密機械業からの求人が多い等の理由で目標未達成となったが、生徒からは身近な公園を一から作ることができて、学校ではできないような貴重な経験になったとの感想を得た。					
今後の方向性	上伊那農業高校の学科再編の影響もあり、測量など建設系の授業が少なくなっており、建設産業への就職・進学者数を増やすことが困難な状況ではあるが、今後も担い手確保に向け事業を継続する。					

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和8年3月30日

提出区分	実績	整理番号	4	課題区分	C		
横断的な課題	若者・女性から選ばれる伊那谷の未来を創る「ひと」づくり						
地域重点政策	伊那谷の未来を創る「ひと」づくり					上伊那地域振興局	
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	企画振興課	
事業名	理系女性の増加に向けた中高生への情報発信事業				電話	0265-76-6801(企画振興課)	
					E-mail	kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp	
事業概要	目的 (目指す姿)	地域で活躍する理系女性の増加のため、進路選択を控える中高生へ理系分野で働く女性の姿を発信し、上伊那地域での理系分野の活躍の場を知り、地域で働くイメージを持つ機会を創出する。					
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・上伊那地域はものづくり等の製造業が盛んで、理系職種の活躍の場が多くある一方で、理系分野の進路を選択する女性の比率は少ない。 ※4年制大学学部生のうち女性の割合…<u>理学部28.3%</u>、<u>工学部16.7%</u>、<u>社会科学37%</u>、<u>人文科学64%</u>(R6文科省統計) ・背景には、「女性は理数系科目が苦手」といった無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)や身近にロールモデルが少ないこと等があると考えられる。 ・女子生徒の理系の選択理由は、将来的なキャリアを見据えた理由が男子より高い傾向があり、文理選択後の将来像が見えるかどうか、選択の理由や文理選択の悩みの理由となっている。 ※「文理選択に関するアンケート調査」(公財山田進太郎D&I財団) 					
	内容	<p>進路選択を控えた中高生へ上伊那地域で働く理系女性の姿を発信し、地域での理系分野の活躍の場を知り、地域で働くイメージを持つ機会を創出する。</p> <p>上伊那地域で働く理系女性のインタビュー動画のケーブルテレビ等での発信</p> <p>○コンセプト「理系の女性が創り出す地域の未来」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来のイメージがわからない中高生に対して、自分事として考えやすい「高校再編」をテーマに20分程度の理系女性へのインタビュー動画を制作しケーブルテレビで放映する。 ・伊那新校の設計に携わるなど、地域の未来を創り出している理系女性を通し、自分自身の将来と地域(社会)を考えてもらう。 <p>○インタビュー対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20代～50代の上伊那地域で働く女性(4名程度) ・新校舎の設計に携わる建築士、製造業で製品開発等に取り組む技術者等 <p>○情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内ケーブルテレビでの放映 ・キャリアイベント、合庁デジタルサイネージ等での放映 ・中学・高校の授業等での活用、SNS掲載 					
事業期間	令和7年8月			～	令和8年3月		
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考			
	理系女性の増加に向けた中高生への情報発信事業	上伊那地域で働く理系女性のインタビュー動画の作成と発信	628,800	ケーブルテレビでの番組作成・放映料 600,000円(役務費) 出演者への謝金 3,200円×3h×3名 28,800円(報償費)			
	合計		628,800				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	インタビュー動画の放映数		200	315	● 達成		
					○ 一部達成		
					○ 未達成		
事業実績・成果	<p>【事業実績】</p> <p>○インタビュー動画の撮影</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上伊那地域で働く女性として、下記の3名に出演いただき、動画を作成した。 ①須永氏(一級建築士事務所 暮らしと建築社):伊那高等学校(仮称)を設計 ②守屋氏(KOA(株)設備開発センター):製造業で製品開発等に取り組む技術者 ③平林氏(伊那食品工業(株)商品開発室) <p>○指標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケーブルテレビでの放映(伊那ケーブルテレビ7回、エコシティ・駒ヶ根11回、ほたるチャンネル34回)計52回…① ・中学・高校の授業等で活用するため、伊那市教育委員会との協議を実施した。(R7.11.27) ・SNSへの掲載(YouTubeへ動画公開 https://www.youtube.com/watch?v=bznotXzuDq8) R8.3.30現在 放映回数263回…② <p>成果 ①+②=315回【動画尺18分40秒/回】</p>						
	<p>【成果】</p> <p>作成した動画を放映し、進路選択を控える中高生や保護者等へ理系分野で働く女性の姿を発信するとともに、上伊那地域における理系分野での活躍の場を知り、地域で働くイメージを持つ機会を創出した。</p>						
今後の方向性	上伊那管内中学校や高等学校における授業等で、放映する機会を創出する。						

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和8年4月22日

提出区分	実績	整理番号	5	課題区分	C
横断的な課題	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり				
地域重点政策	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり				
実施機関	上伊那農業農村支援センター			担当課	所属
事業名	はな(花)高々い～な(伊那)～上伊那の花 認知度向上プロジェクト(通称:花プロ)～			電話	上伊那農業農村支援センター
				E-mail	0265-76-6813
					kamiina-nogyo@pref.nagano.lg.jp
事業の概要	目的 (目指す姿)	「花の大産地 上伊那」の認知度を高めて需要喚起と生産振興を通じ、女性や若者に選ばれる魅力ある地域を目指す			
	現状と課題	上伊那地域は県内でも有数の花き産地で、アルストロメリア、トルコギキョウ、カーネーションなどの多くの品目が栽培されており、生産量は国内でもトップクラスであるが、地域住民の認知度が低い状況である。農政部を除く合庁内職員においても「花の産地であることを知らなかった」との回答率は53%で低かった。R6年度に上伊那の花の認知度向上に向けた取り組みとして、①上伊那の花の展示、②花カード・缶バッジの作製配布 ③支援センターHPでの情報発信 ④花カフェの開催 ⑤上農高校生徒へ花プロ授業 ⑥伊那有線による情報発信など様々な活動を実施した。これらの活動はメディアにも取り上げられ、花カード・缶バッジも好評であった。認知度向上にはこれらの活動を継続して取り組むことが重要となっている。			
内容 (変更後の内容)	令和7年度においても引き続き花プロジェクト活動を実施していく。(以下、地域振興推進費を活用する取組のみ記載)				
	<p>1 上伊那の旬の花展示 11回(R7.5月～R8.3月) 展示場所:伊那合庁2階 生産される主要な花き類を種類別にリレー式で毎月展示する。 展示に近接してポップ表示による花の紹介を掲示する。</p> <p>2 花カードの作製・配布 2品目×3品種 計3,000枚 生花店7店舗への設置の他、イベントで来場客に配布する。</p> <p>3 上伊那農業高等学校の生徒が花産業の魅力について学ぶ花プロ授業「花プロwith上農!!」を開催する。 上伊那農業高校で栽培しているトルコギキョウとシクラメンについて、地元JAの技術員から栽培の基礎を、また、生産者の栽培ハウスを視察することで学校での花づくりに活かし、より良い花を学校祭などで販売する。また、R7年度の新しい取り組みとして、県野菜花き試験場(塩尻市)で花の研究を視察し、本県の花き産業にどう貢献しているかを知ってもらい、職業選択の一つとして参考にしてもらう。また、昨年に引き続き、生産者・生花店との意見交換会を通して、花に関わる仕事を幅広く学ぶ機会を作る。</p> <p>【変更】</p> <p>1 変更内容 事業の追加(但し、事業費の変更なし)</p> <p>2 追加事業 東急本社で開催される「長野県包括連携イベント」への参加</p> <p>3 催事期日 令和7年6月11日(水) 東急(株)本社 1階会議室</p> <p>4 催事内容 令和7年2月18日に長野県と東急(株)で包括連携協定を締結。 連携機運醸成と本県魅力を東急(株)社員に発信するため、観光・工芸・農産物(花含む)などをPRする物産展を県と東急(株)で共催により実施。 「花の大産地 上伊那」をPRするため物産展に参加し、上伊那の花を配布する。</p> <p>5 経費 17,000円(切り花、包装容器)</p> <p>6 経費は、花の魅力発信講座(農業高校での花プロ授業)の花材代176,000円から振り向ける。</p>				
事業期間	R7年4月		～	R8年3月	
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考	
	上伊那産花きの展示	生花の展示(6月～3月)	68,040	アレンジメント代50,000円(税込)(5,000円×10回) 花器資材等 18,040円(税込)	
	上伊那産花きのPR	花カードの作製	99,990	6種類×500枚(1枚単価33円)	
	花の魅力発信講座	農業高校での花プロ授業	117,425	講師謝金19,200円 (3,200円/h×2h×3回) 花材代79,750円 花プロ授業諸材料費18,475円 (実習用筆ペン、マジック他)	
	花の魅力発信イベント	物産展への出展	7,147	花代6,600円、包装袋547円	
合計			292,602		
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	カード配布枚数		2,000枚	2,500枚	● 達成
					○ 一部達成
					○ 未達成

事業実績・成果	<p>5月から通年で11回、JA上伊那の花の定期便(サブスク)を活用し、伊那合庁県民ホール前で「上伊那の花」展示を行った。</p> <p>上伊那の「花カード」を発行し、関係団体へ配布を行った。専用ホームページを開設し、カードの詳細情報を閲覧できるようにした。</p> <p>伊那市有線放送農業協同組合(いなあいネット)に6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、1月、3月の9回番組制作に協力し、上伊那の旬の花のPR放送を行った。</p> <p>7月24日に上伊那農業高校生3名にアレンジメント教室を開催、フローリストの職業に理解を深めた。</p> <p>6月11日に、東急「長野県包括連携お知らせイベント」に出店し、上伊那産花きのPRを行った。</p> <p>5月8日、7月8日、7月17日、10月20日、11月14日、12月16日、2月4日、2月17日、3月4日、3月5日(計)10回、上伊那農業高校植物コース1・2・3年生を対象に「花プロ」with上農として授業を開催した。花栽培の基礎からプロの技術の体験、花の販売実習、花関連業者との対話、花のイベント活用体験などを実施した。生徒には、職業選択の一つとして理解を深めることができた。これまでの2年間の活動により、進路を変更し、花き小売業を学ぶ生徒も現れた。</p>
今後の方向性	<p>上伊那の花の魅力発信と花関連産業への若者の地元定着を目指し、上伊那農業高校との連携や令和8年度新たに取り組みを開始する、若年層をターゲットにした「花育」を関係機関とともに継続してプロジェクトに取り組む。</p>

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	6	課題区分	C	令和8年3月24日
横断的な課題	若者・女性から選ばれる伊那谷の未来を創る「ひと」づくり					上伊那地域振興局
地域重点政策	伊那谷の未来を創る「ひと」づくり					
実施機関	上伊那地域振興局農地整備課			担当課	所属	農地整備課
事業名	農業水利資産の郷土学習事業				電話	0265-76-6816
					E-mail	kamichi-nochi@pref.nagano.lg.jp
事業の概要等	目的 (目指す姿)	上伊那地域の農業の維持・発展と、それを支える農業水利施設の適切な維持管理に向けて、農業水利資産を活用した郷土学習の場を設け、地域を愛し地域を支える人材を育成する。				
	現状と課題	・当地域は、水稻、果樹、花き等の高品質な農作物の一大生産地帯であるが、人口減少と担い手農家の高齢化が進んでおり、次代の農業や農業水利施設の維持管理を担う若者への教育が必要である。 ・地域の農業や農業水利施設を学習する「農業用水探検隊」の取組は小学4年生の社会科の授業の一環として定着しているが、取組を継続し、更なる理解促進を図るには、県だけでなく農家や施設の管理者等と連携して分かりやすい説明に努めていく必要がある。 ・上記の活動を推進するために地域住民の意識(理解度)の向上は有効であるため、機会(地元の会合など)があれば教材を配布するなどして周知を図っていく。				
	内容 (変更後の内容)	・農業水利施設の教材を活用した現地見学会の開催、及び地域住民への教材配布による意識向上 西天竜幹線水路の受益地内にある小学校を対象に「農業用水探検隊」を開催し、現場見学や学習教材による説明を通して、地域の農業とそれを支える農業水利施設の維持管理の大切さについて理解促進を図る。 小学生だけでなく、地域全体における意識(理解度)の向上を図るため、有効的な機会を見つけて教材を配布していく。				
	事業期間	令和7年9月 ~ 令和8年3月				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画額	備考		
	印刷費	学習教材等印刷	99,000	西天竜幹線水路等の冊子 200部 @450×200部×1.1=99,000		
	合計		99,000			
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	農業水利資産の地元周知(農業用水探検隊関連)に係る資料配布		200部	200部	● 達成 ○ 一部達成 ○ 未達成	
事業実績・成果	令和7年度において、西天竜幹線水路等に係る農業用水探検隊を小学校8校・全13回(児童4年生 約470名)開催し、現地での説明が理解し易くなるよう事前に冊子を配布した。また、日程やバス予約の都合などで参加できなかった場合でも、申出があった学校には教材用として配布を行った。 さらに、地域住民の意識(理解度)向上のため、有効な機会(地元の会合など)を見つけ農家等に配布を行った。 以上の取組みにより、児童においては予習してから探検隊に参加するケースがほとんどで、より理解度が深まった。また、地域においては忘れられがちだった地元の財産について、その重要性が再認識されることとなった。					
	今後の方向性	農業用水探検隊の開催を通じて、農業水利施設への理解が深まるよう継続して取り組んでいく。				

地域振興推進費自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	7	課題区分	C	令和8年4月1日	
横断的な課題	移住・関係人口の増加に向け、人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり					上伊那地域振興局	
地域重点政策	人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり						
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	林務課	
事業名	上伊那地域材利活用促進事業				電話	0265-76-6825	
					E-mail	kamichi-rimmu@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要	目的 (目指す姿)	上伊那地域の森林から産出される地域材の利活用を促進するため、地域材で作られた製品や事業者のPRを図る。					
	現状と課題	上伊那の森林資源は伐期を迎えており、地域材の利活用を増やすことは資源の循環を促進することにつながるが、間伐など森林施業は進んでいるものの、地域材の地元での利用は進んでおらず、地域材もあまり一般県民に知られていない。 令和6年度立ち上げた「上伊那地域材利活用促進協議会」で作成したウェブサイト「きとくらす上伊那」はアクセス数4,000/月以上で認知度の向上に一定の効果があったものと考えられる。 また、昨年度開催した「青空市」や「アンテナショップ」については、地域材を活用した製品を直接手に取る機会として効果的ではあるものの、継続的な開催が課題となっている。					
	内容 (変更後の内容)	【上伊那地域材に直接見て触れる機会の創出】 「きとくらす上伊那」に掲載されている事業者の製品等を合庁県民ホール等で展示し、来庁者等が地域材を直接見て、触れる機会を創出するとともに、「きとくらす上伊那」のPRするポスターを展示することで、興味を持った方が製品を購入する手段を提供し、地域材の利活用を促進する。					
	事業期間	令和8年1月 ~ 3月					
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	上伊那地域材利活用促進事業	「きとくらす上伊那」に掲載されている事業者の製品を合庁県民ホール等に展示し、直接見て触れる機会を創出する。	180,146	製品の購入、「きとくらす上伊那」のPR			
	合計		180,146				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	「きとくらす上伊那」のアクセス数の増加		4,400回/月	4,500回(3月)	● 達成 ○ 一部達成 ○ 未達成		
事業実績・成果	【事業実績】 ・下記のとおり、購入した木材製品の展示ときとくらす上伊那のPRを実施。 日時: 令和8年3月9日(月)~ 場所: 伊那合同庁舎2階ホール ・合庁を訪れる方が立ち止まり、製品を手にする姿もよく見られ、パンフレットの減り具合からも多くの人にご覧いただいたことが分かる。中には、直接林務課へお問い合わせいただき、展示している商品がどこで買えるかを問い合わせる方もいた。						
	【成果】 ・実際に自分の目で見て、手に取る機会を設けることで、木材製品や木材に対する興味及び、上伊那地域の木材について考える機会を創出し、地域材の利活用促進に向けた、認知度の向上が図られた。						
今後の方向性	今後は、管内市町村の公共施設等で巡回展示を行い、引き続き上伊那地域産木材及びきとくらす上伊那のPRを行う。						

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和7年10月23日

提出区分	実績	整理番号	8	課題区分	C
横断的な課題	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり				
地域重点政策	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり				
実施機関	上伊那地域振興局				
事業名	地元酒米を使った地酒・信州そばPR事業	担当課	所属	商工観光課	
			電話	0265-76-6829(商工観光課)	
			E-mail	kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp (商工観光課)	
事業の概要	目的 (目指す姿)	農地整備課、農業農村支援センターと連携し、地元の棚田で収穫された酒米(長野県で開発した「ひとごち」「美山錦」「山恵錦」)を使った日本酒の魅力をPRし、日本酒消費拡大による酒造産業の振興、酒米生産の増加による農業振興、棚田の保全に資する。			
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日本酒の国内出荷量は、ピーク時(昭和48年)は170万klを超えていたが、他のアルコール飲料との競合などにより年々減少し、令和5年では39万klまで低下している。(農林水産省調べ) ・山間地にある棚田は高齢化、担い手農家の減少により耕作放棄が進んでおり、保全が課題となっている。 ・今後、地元の棚田で収穫された酒米を使った日本酒の魅力をPRし、日本酒消費拡大による酒造産業の振興、酒米生産の増加による農業振興、酒米生産による棚田の保全を進める必要がある。 併せて、信州そばPRの一環としてそば焼酎の試飲を行い、魅力を広める。 ・昨年度「信州伊那街道秋の呑みあるき」に合わせて地元の棚田で収穫した酒米を使った地酒の試飲及びPRを行い、約300名の参加者に上伊那の地酒の魅力をPRすることができた。 			
	内容 (変更後の内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・東急本社社員に対して上伊那地域のPRを行うこととなり、本事業の一環として位置づけ上伊那地域の棚田米を使った地酒のPRの実施。 ・「信州伊那街呑みあるき実行委員会」主催で9月に伊那市通町商店街等で開催される、上伊那地域酒蔵が集まる呑み歩きイベントで、上伊那地域振興局のブースを出展し、棚田、酒米、日本酒のパンフレット、棚田缶バッチ配布、棚田紹介パネル展示や地元棚田で収穫した酒米により醸造した日本酒の試飲による魅力情報を発信する。 			
	事業期間	令和7年6月 ~ 令和7年10月			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	地元棚田で収穫した酒米を使った地酒PR事業	地元棚田米による酒米を使った日本酒の試飲等	39,819	<ul style="list-style-type: none"> ・試飲用日本酒28,049円(需用費) (1,500円(税込)×5本=7,500円 (2,310円(税込)×2本)=4,620円 (3,145円+2,909円+2,727円+5,700円(3,135円(税込)×2本)=15,929円 ・試飲用そば焼酎6,600円 (1,320円(税込)×5本) ・試飲用プラスチックカップ100個 2,170円(需用費) ・呑み歩きイベントブース出展料 3,000円(使用料) 	
	合計		39,819		
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	イベントのブース来場者数		210人	350人	○ 達成
	東急グループ社員への試飲		150人	120人	● 一部達成
					○ 未達成
事業実績・成果	<p>OR7.6.11「令和7年度長野県包括連携お知らせイベント」(開催場所:東急株式会社本社 主催企画振興部 広報・共創推進課)において、上伊那地域の棚田で収穫した酒米を使った地酒の試飲及び棚田のPRを実施。参加者約280名のうち約120名に対し試飲を行った。試飲した東急社員から「非常に飲みやすい」「どんな料理にも合いそう」「購入したい」等、好評をいただいた。 なお、当日は農業農村支援センターも参加し、酒米についての説明なども併せて実施した。</p> <p>OR7.9.27「信州伊那街道秋の呑みあるき」に合わせて地元の棚田で収穫した酒米を使った地酒5種類とそば振興を目的とした上伊那産そば焼酎1種類の試飲を行い、約350名に提供。地域の地酒の魅力をPRした。地元においても「この銘柄は知らない」「あまり聞いたことがない」「名前は知っているが飲む機会がない」といった発言が多く聞かれたので、当初の目的は十分達成できた。 なお当日は農地整備課も参加し、缶バッチやパンフレット配布による棚田の魅力を伝えるPRも合わせて実施した。</p>				
	今後の方針	今後も局内各課と連携を取りながら棚田米の魅力を地域に広めていく			

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和8年3月18日

提出区分	実績	整理番号	9	課題区分	C
横断的な課題	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり				
地域重点政策	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり				
実施機関	上伊那地域振興局農地整備課			担当課	所属 農地整備課
事業名	スマート農業×田んぼダム実証実験事業			電話	0265-76-6816
				E-mail	kamichi-nochi@pref.nagano.lg.jp
事業の概要等	目的 (目指す姿)	農業分野におけるスマート農業技術の普及促進と併せ、天竜川上流流域治水プロジェクトに位置付けられている「水田を活用した雨水貯留の取組」の推進に向けて、試験ほ場を設置し、その効果の検証、成果や課題の整理を行うとともに、普及に向けて市町村や土地改良区、農業者等への理解醸成を図る。			
	現状と課題	・スマート農業の取組において、農業用水路のパイプライン化と併せた機器の普及事例は県内になく、令和6年度に設置した試験ほ場での検証を進め、地域内外にその効果を普及していく必要がある。 ・田んぼダムの取組については、令和6年度に天竜川水系においてはじめて試験ほ場を設置し、研修会を開催した。より効果的な導入方法を検証し、引き続き啓発に取り組む必要がある。			
	内容 (変更後の内容)	・農業用水のパイプライン化を実施済みのほ場において、自動給水栓、機能分離型の田んぼダム用排水柵を設置し、その効果や、営農への影響、維持管理方法等を検証する。 試験ほ場の設置 1地区(駒ヶ根市下平地区) (自動給排水栓、堰板型の排水栓、比較用のほ場等を設置) ・田んぼダムの効果検証に向けて、令和7年度の取組内容について、有識者を招へいして、導入に当たったの留意点、検証方法等について現地にて打合せを行う。 【現地打合せ】 ・日時:令和7年4月22日(火) ・場所:駒ヶ根市駒ヶ根土地改良区及び現地、並びに伊那市役所 ・内容:田んぼダムの取組の検証に係る現地打合せ、並びに伊那市の取組みに向けた意見交換 ・有識者:新潟大学農学部教授 吉川夏樹氏			
	事業期間	令和7年4月		～	令和8年3月
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画額	備考	
	使用料及び賃借料	自動給水栓の使用料	(88,000) 70,950	自動給水栓 使用料(笑農和製) @15,500×1台×4ヶ月×1.1=68,200 自動給水栓 システム使用料(クボタ製) @2,500×1台×1.1=2,750	
	役務費	自動給水栓保険料	7,000	自動給水栓 保険料(笑農和製) @7,000×1式・台=7,000	
	報償費	有識者現地打合せ謝金	(26,400) -	辞退(大学教授級)	
	旅費	有識者現地打合せ旅費	(41,000) -	辞退(大学教授級[新潟～駒ヶ根])	
合計		(162,400) 77,950			
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	スマート農業に係る試験ほ場の設置(駒ヶ根市下平)		3箇所	3箇所	● 達成 ○ 一部達成 ○ 未達成
	田んぼダムに係る試験ほ場の設置(駒ヶ根市下平)		2箇所	3箇所	
	田んぼダム現地打合せの開催		1回	1回	
事業実績・成果					
・スマート農業の取組に向け、農業者に自動給水栓を体験してもらい、その効果等を検証することができた。 ・田んぼダムの取組について、有識者を招へいして試験ほ場での打合せを行い、留意点等を確認することができた。					
今後の方向性	スマート農業及び田んぼダムの取組の普及に向けて、引き続きその効果の検証と理解醸成を図っていく。				

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	10	課題区分	C	令和8年(2026年)4月1日	
横断的な課題	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる持続可能な「まち・暮らし」づくり						
地域重点政策	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり					上伊那地域振興局	
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	総務管理課	
事業名	多文化共生防災促進事業				電話	0265-76-6803	
					E-mail	kamichi-kenmin@pref.nagano.lg.jp	
事業概要	目的 (目指す姿)	災害時における外国人の逃げ遅れゼロ及び避難所等における多文化共生の促進					
	現状と課題	<p>○現状 現在、上伊那地域には約5,000人(管内人口比2.8%)の外国人が在住しており、今後も企業の人不足等により外国人労働者の更なる増加が見込まれる。 一方で、南海トラフ巨大地震や豪雨災害など、大規模災害が懸念される中、言語や文化の違いから災害への理解が不足している外国人も多い。</p> <p>○課題 外国人の防災知識や、災害時の情報不足から、逃げ遅れ、避難所におけるコミュニケーション不足等が懸念される。 上伊那では市町村で災害対応の研修等が始まっているが、取組内容に差があり人的体制に不安がある自治体もあるため、広域的な連携が必要である。</p>					
	内容 (変更後の内容)	<p>○「多文化共生防災セミナー」の開催 ・実施時期 令和8年(2026年)1月26日(月) ・対象者 市町村防災及び多文化共生担当、関係機関職員等 ・実施内容 災害発生時の外国人対応について各自治体が抱える課題を共有し、解決策について話し合うことで広域連携のあり方について検討する。</p>					
	事業期間	令和8年1月		～	令和8年1月		
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	多文化共生防災セミナー	市町村、関係機関向けのセミナー開催	68,080	講師報酬 55,000円 旅費 6,540円×2(往復)			
	合計		68,080				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	多文化共生防災セミナー参加者		20人	24人	● 達成		
					○ 一部達成		
					○ 未達成		
事業実績・成果	【事業実績】 ・多文化共生防災セミナーを実施した。概要は下記のとおり。 日 時: 令和8年1月26日(月) 参加者: 各市町村の防災担当者及び多文化共生担当者、広域消防職員、南信州地域振興局職員 内 容: ①NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会の代表理事土井佳彦氏による災害時の外国人対応についての講義 ②箕輪町くらしの安全安心課職員による町で先進的に取り組んでいる多文化共生の事例発表 ③事例発表を元に、各市町村での今後の取組み及び、市町村や関係者の垣根を越えた連携についてのワークショップ ※今回は、上伊那地域で災害時の外国人対応に対する取組が活発になってきているため、伊那市と共催で、広域連携をテーマに開催した。 ・参加者にアンケートを取ったところ、「今後も続けて欲しい」「垣根を越えた連携について話し合う場は必要」「外国人が災害時に日本人と同じように活躍するということを初めて知った」などがあった。						
	【成果】 ・本セミナーをとおり、外国人の避難対応の必要性に対する意識が上伊那市町村全体に広まり、今後地域コミュニティへの外国人参加がすすんで行くと思われるため、一定の事業効果が得られていると考えられる。						
今後の方向性	今年度で終了となる事業である。 地域で取組が活発になって来ているため、状況を見ながら必要に応じて事業を実施したい。						

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和8年5月13日

提出区分	実績	整理番号	11	課題区分	C
横断的な課題	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる持続可能な「まち・暮らし」づくり				
地域重点政策	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる持続可能な「まち・暮らし」づくり				
実施機関	上伊那地域振興局		担当課	所属	企画振興課
事業名	みすずハイウェイバス利用促進事業			電話	0265-76-6801(企画振興課)
				E-mail	kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp
事業の概要等	目的 (目指す姿)	市町村等と連携しながら課題への対応策を検討・実践することで、みすずハイウェイバスの持続的な運行を実現する。			
	現状と課題	【現状】 ・令和7年度において、実証運行としてみすずハイウェイバスの運行便数を4便から7便へと増便しているが、令和7年5月の利用率は前年同月比20%程度の増加にとどまっている。(実証期間は令和8年度まで) ・令和8年度までに年間乗車数を80,000人に回復することを目標としているが、令和6年度の年間乗車実績は45,683人とどまっている。 ・目標としている年間80,000人の乗車数が達成できない場合、減便や路線廃止の可能性もある。 【課題】 ・現時点では、県から市町村に検討を促すための根拠(具体的データ)を持っていない。 ・バス利用の促進に向けた行政の主体的な取り組みが必要であるが、管内市町村においては具体的な検討が進んでいない。			
	内容	○バス乗車券の購入補助(割引) 【概要】 ・期間:令和7年7月～9月(夏休み期間) ・対象:上伊那管内のみすずハイウェイバス停留所で乗車または降車する者 ・内容:対象期間中、バス乗車券の購入費用を一部補助(割引)。 また、増便情報を記載したチラシも併せて配布しPRを実施する。 ○アンケート調査 【概要】 ・期間:令和7年7月～9月(上記割引を利用するには、アンケート調査の回答必須) ・対象:バス乗車券購入補助を利用した者 ・内容:利用者の視点による課題把握・可視化のため、アンケート調査を実施。 (性別や年代、利用目的、利用促進に向けて必要な取組など)			
	事業期間	令和7年7月 ～ 令和7年10月			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	みすずハイウェイバス利用促進事業	みすずハイウェイバスの利用促進に向けた乗車券購入補助、利用者を対象としたアンケート実施及び事業周知のためのチラシ作成	752,470	・チラシ作成費 52,470円(需用費) ・委託料 700,000円(委託費) (乗車券補助を含む販売事務及びアンケート回答の協力依頼等)	
合計			752,470		

指標及び達成状況	成果指標	目標値	成果	達成状況
	アンケート結果を基に、管内市町村等に対し、公共交通に係る施策の検討を依頼	8市町村	8市町村	● 達成
	事業周知のためにチラシを配布する学校数	9校	9校	○ 一部達成
				○ 未達成
事業実績・成果	<p>【事業実績】</p> <p>①バス乗車券の購入補助(割引)を実施。概要は以下のとおり。 実施期間: 令和7年7月15日(火)～令和7年9月2日(火)まで 利用実績: 往復券256枚、片道券114枚 内 容: 上伊那地域で乗降する利用者を対象に、運賃を最大片道1,000円、往復2,000円割引するバス乗車券購入補助を実施した。 あわせて、乗車券購入時にアンケート調査を行い、利用者の属性や利用目的、利用促進に向けて必要と考えられる取組等について回答を得た。 アンケート結果では、伊那市在住または伊那市を発着とする利用者が最も多かった。性別では、男性に比べ女性の利用者が約2倍多い傾向が見られた。年代別では50～60代の利用者が多く、普段から本路線を利用している利用者が多く見られた。利用目的は観光が最も多く、次いで帰省が多い結果となり、目的地については長野駅周辺が大半を占めていた。これらのアンケート結果については、公共交通協議会上伊那地域別部会分科会において管内市町村へ共有し、現状や課題の認識を深めるとともに、利用促進に向けた施策の検討を依頼した。</p> <p>②事業周知に係るチラシの作成及び配布を実施。概要は以下のとおり。 作成部数: 3,000枚 配布先: 管内8市町村の役所(役場)、管内の高校9校、信大農学部、南信工科短大、信州豊南短大、長野県看護大学、商工会議所(伊那、駒ヶ根)、八十二銀行伊那支店、長野銀行伊那支店、伊那バス株式会社</p> <p>【成果】 当事業を通して、運賃割引を契機とした利用頻度の向上などが見られ、特に8月においては利用率が前年同月比で約30%増加するなど、利用促進に向けた一定の成果が得られた。さらに、アンケート調査により利用実態や課題を可視化し、公共交通協議会を通じて管内市町村と共有することで、今後の施策検討に資する一定の知見を得ることができた。</p>			
今後の方向性	<p>今後は、本事業により得られた結果も踏まえ、引き続きみずずハイウェイバスの利用促進に取り組む。</p>			

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和8年3月3日

提出区分	実績	整理番号	12	課題区分	C
横断的な課題	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる持続可能な「まち・暮らし」づくり				
地域重点政策	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる持続可能な「まち・暮らし」づくり				
実施機関	上伊那地域振興局農地整備課			担当課	所属 農地整備課
事業名	農業資産・農村環境学習事業			電話	0265-76-6820
				E-mail	kamichi-nochi@pref.nagano.lg.jp
事業の概要	目的 (目指す姿)	農村を維持発展させるため、農業水利資産や農村環境を活用した郷土学習の場を設け、農業の歴史や大切さを学び、地域を愛し地域を支える人材を育成する。			
	現状と課題	・平成19年度から伊那市・辰野町・箕輪町・南箕輪村の小学生を対象に農業用水探検隊を行っているが、飯島町では行っていない。 ・郷土学習資料「飯島町大正新田ー原野を切り開いた人達ー」(伊藤修)が発行され、地域で学習会が開催されている。 ・自然環境や景観に恵まれた「千人塚」「滝ヶ原」ため池がある。			
	内容 (変更後の内容)	・農業資産(用水路・ため池)に係る学習資料の作成および印刷を実施。 ・農業農村整備事業により用水を改修することを契機とし、飯島町の小学生を中心に資料を配布し、地域のお米づくりを中心とした農業の大切さや農業資産の歴史、自然環境について学習する機会を提供する。			
	事業期間	令和7年12月 ~ 令和8年2月			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画額	備考	
	印刷費	学習資料の印刷	94,600	215円/部×400部×1.1=94,600円	
	合計		94,600		
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	資料の配付(飯島小学校、七久保小学校へ各100部)		200部	222部	○ 達成
	資料の配付(飯島町役場、伊那合同庁舎へ各100部)		200部	178部	● 一部達成
					○ 未達成
事業実績・成果	・飯島町の農業資産を紹介するパンフレットを作成し印刷した。印刷した資料については飯島小学校および七久保小学校や飯島町役場へ配布した。 ・関係者と協議し飯島町内の道の駅(田切の里、花の里)にも配付することができた。 ・当初想定していた以上に小学校から配付要望があり追加で配付した。 ・パンフレットを配付することにより、飯島町内の農業資産に対する知名度や理解を向上した。				
今後の方向性	引き続き小学生を中心に資料を配布をし、農業資産の魅力や施設の役割に対する理解が深まるよう継続して取り組んでいく。				

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	13	課題区分	C	令和8年4月30日	
横断的な課題	人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり						
地域重点政策	人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり					上伊那地域振興局	
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	商工観光課	
事業名	中央アルプスの雪と高遠の桜等を活用したファミトリップ実施事業				電話	0265-76-6829(商工観光課)	
					E-mail	kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp (商工観光課)	
事業概要	目的 (目指す姿)	リニア中央新幹線の開業及び三遠南信自動車道の開通を見据え、中央アルプスの「雪」と集客力のある高遠の「桜」を組み合わせる上伊那ならではの魅力ある観光コンテンツを活用したファミトリップのモデルコースを開発し、来年度ファミトリップ実施につなげ、当地域の新たな観光コンテンツとすることを目的とする。					
	現状と課題	<p>上伊那地域への観光客は、令和5年の観光地利用者統計調査において延べ利用者数が384万人(全県比4.8%)、観光消費額は91億円(全県比2.9%)と少ない状況となっている。また、コロナ前(令和元年)に比べ利用者数が7割程度と回復しきっていない。</p> <p>また令和5年外国人延宿泊者数調査結果によると、上伊那地域の外国人宿泊者数の全県に占める割合は僅か0.6パーセントと非常に低い状況にある。</p> <p>中央アルプスや高遠の桜など、個別に観光の目玉となるコンテンツは存在するものの、季節が限られたものとなっており、特に中央アルプスの春季・冬季の観光客数は夏季・秋季の約10分の1となっている。一方で高遠の桜は春に最も観光客が増える時期である。</p> <p>全国的に、雪と桜を同時期に見ることが出来る地域は非常に珍しく、これらを新たな観光資源として活用することにより、誘客の一助とする。特に上伊那地域は外国人観光客が少ない状況にあるため、雪を見る機会の少ない外国人に対しても積極的にPRしていく必要がある。</p>					
	内容 (変更後の内容)	<p>中央アルプスの「雪」と高遠の「桜」を活用したファミトリップツアーの造成を行う。</p> <p>1 ファミトリップツアー開発のための事前調査及び研究の実施 ファミトリップツアー開発に向け、観光資源の事前調査及び研究を実施。</p> <p>2 モデルコースの開発 ファミトリップ実施に向けたモデルコースの開発</p>					
	事業期間	令和7年5月			～	令和8年3月	
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容		実績額	備考		
	中央アルプスの「雪」と高遠の桜等を活用したファミトリップ嫉視事業	ファミトリップ実施に向けたモデルコースの開発		696,960	一般社団法人長野伊那谷観光局への委託696,960円(委託費)		
	合計		696,960				
指標及び達成状況	成果指標			目標値	成果	達成状況	
	モデルコースの開発			1コース	1コース	<input checked="" type="radio"/> 達成 <input type="radio"/> 一部達成 <input type="radio"/> 未達成	
事業実績・成果	<p>○令和7年10月29日 第1回打合せ 参加者8名(旅行関係者 4名うち外国人2名 オブザーバー2名 事務局2名) <内容> ・コンテンツについての意見交換 ・その他出席者による意見交換 ・外国人が喜ぶコンテンツ 等</p> <p>○令和7年12月12日 第2回打合せ 参加者9名(旅行関係者 5名うち外国人1名 オブザーバー2名 事務局2名) <内容> ・ツアーに組み込むコンテンツについて意見交換</p> <p>○令和8年2月17日～19日 現地調査 参加者 旅行関係者6名(うち外国人1名) 検討会での各意見を元に、上伊那地域の代表的な観光地の他、お金を稼げる新たなコンテンツを加えたコースを体験</p> <p>○モデルコースの作成 現地調査で参加者からの評判の良かったコンテンツを中心に、体験を重視したモデルコースを作成</p>						
今後の方向性	令和7年度に作成したモデルコースを令和8年度にFAMトリップを実施し、旅行業者へ周知旅行商品造成の働きかけを行う。						

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	14	課題区分	C	令和8年4月30日 上伊那地域振興局
横断的な課題	人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり					
地域重点政策	人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり					

実施機関	上伊那地域振興局	担当課	所属	商工観光課
事業名	上伊那観光PR事業		電話	0265-76-6829(商工観光課)
			E-mail	kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp (商工観光課)

事業の概要	目的 (目指す姿)	リニア開業を見据え、上伊那地域のPRを県内外で実施し、上伊那地域への誘客を促進する。
	現状と課題	<p>上伊那地域への観光客は、令和5年の観光地利用者統計調査において延べ利用者数が384万人(全県比4.8%)、観光消費額は91億円(全県比2.9%)と少ない状況となっている。また、コロナ前(令和元年)に比べ利用者数が7割程度と回復しきっていない。</p> <p>令和6年度には妻籠宿、ペルーナドーム、名古屋栄地下及び金山駅において主に中京圏を対象とし、2,900名以上の方に観光パンフレットの配布や地域の特産品を景品とした抽選会等を行うとともに新聞でのイベント記事掲載を通じて上伊那の観光地の魅力をPRすることができた。</p> <p>また中部国際空港の国内線、国際線ターミナルにおいて上伊那地域のパネルを展示し空港利用者へのPRを実施した。</p> <p>一方、アンケート結果を見ると上伊那地域の知名度が低く、隣県で比較的上伊那地域に近い名古屋においてもアンケート回答約1,500名のうち500名程度、率にして3割程度しかないのが現状である。</p> <p>今後、リニア中央新幹線開業や三遠南信自動車道の開通を控え、中京圏、首都圏から上伊那へ誘客しやすい環境となる一方、今まで以上に上伊那地域の認知度向上が課題となっている。</p>
	内容 (変更後の内容)	<p>リニア中央新幹線開業や三遠南信自動車道の開通を見据え、長野県の入り口となる南信州地域と連携し、県外各地域、特に今年度は初めて浜松市内で観光PRを行い、上伊那の観光地の認知度向上と実誘客に繋げる。</p> <p>○はままちプラス(浜松市)での観光PR(南信州地域振興局、長野伊那谷観光局及び管内市町村と連携) ⇒7月26日(土)、27日(日) 観光パンフレット・アルクマ缶バッジ等ノベルティ配布、アルクマによるPR</p> <p>○中京圏(愛知県)名古屋栄地下での観光PR(南信州地域振興局、長野伊那谷観光局及び管内市町村と連携) ⇒9月6日(土)、7日(日) 観光パンフレット・アルクマ缶バッジ等ノベルティ配布、ガラポンによる景品抽選会、アルクマによるPR</p> <p>○中京圏(愛知県)中日ビルで伊那谷北部たびフェアでの観光PR(辰野町、箕輪町、南箕輪村と連携) ⇒2月中実施 観光パンフレット・アルクマ缶バッジ等ノベルティ配布、アルクマによるPR</p> <p>○関西圏(大阪市)グランフロント大阪みやだむらいち連携観光PR(宮田村との連携) ⇒11月8日(土)、9日(日) 観光パンフレット・アルクマ缶バッジ等ノベルティ配布、ガラポンによる景品抽選会、アルクマによるPR</p> <p>○関東圏(東京都新宿区) 新宿駅で開催される伊那フェアIN新宿2025での観光PR(伊那市と連携) ⇒3月20日(金)、21日(土)実施 観光パンフレット・アルクマ缶バッジ等ノベルティ配布、ガラポンによる景品抽選会、アルクマによるPR、上伊那地域のワイン・シードルの紹介</p> <p>○PRイベント用大型モニターの購入</p> <p>イベントの開催時にはそれなりの来場者はあるものの、会場から離れている人には何をやっているのか伝わりにくく、スタッフが声をかけるにも会場の制約等により限界があることから、訴求力を高めるため大型モニターを導入し、上伊那地域の映像を流すことでイベントのアピールを行いやすくし、イベント会場への来場を促す。</p>
事業期間	令和7年5月 ~ 令和8年3月	

事業費等	(単位:円)			
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考
	消耗品費(イベント共通)	パンフレット・ノベルティ配布	577,333	<p>(需用費) 531,508円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カタログケース、朱肉 3,284円 ・ノベルティ用袋 18,282円 ・ノベルティ用袋 12,573円 ・缶バッジ 60,280円 ・アルクマぬいぐるみ 3,300円 ・缶バッジ 60,280円 ・缶バッジ 49,500円 ・ベル 4,840円 ・ノベルティ用袋 12,573円 ・スタンド他 14,272円 ・アンケート用ペン他 20,734円 ・イベント用テーブル他 90,750円 ・缶バッジ 99,000円 ・缶バッジ 81,840円 <p>(使用料) 45,825円</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アンケート印刷代 34,378円 ○ノベルティグッズ印刷代 11,447円

事業費等	はままちプラス(浜松市)での観光PR	三遠南信自動車道の開通を見据え、浜松市民を対象とし観光パンフレット配布、地域特産品を景品とした抽選会等	252,587	(需用費) 106,997円 ○公用車ガソリン代 14,105円 ○ガラボン抽選景品 85,483円 ・ソースかつ丼ソース 15,811円 ・上伊那産そば 47,400円 ・信州きのこカレー 9,312円 ・ぶどうジュース 12,960円 ○天龍村産お茶試飲 6,862円 ・養命水 2,592円 ・紙コップ 3,834円 ・お茶パック 436円 ○景品用ビニール袋 547円 (使用料) 73,910円 ○高速代 7,910円 往路:駒ヶ根～三方原 復路:浜松西～駒ヶ根 ○はままちプラス会場 使用料 66,000円 (旅費) 5名宿泊、1名日帰り 71,680円
	名古屋栄地下観光PR事業	中京圏を対象とし観光パンフレット配布、地域特産品を景品とした抽選会等	414,182	(需用費) 111,282円 ○公用車ガソリン代 12,628円 ○ガラボン抽選景品 98,654円 ・クロモジ茶 6,000円 ・クロモジアロマスプレー 7,700円 ・クロモジキレイスプレー 6,160円 ・チーズぷっちいセット 7,879円 ・デザートセット 2,851円 ・塩こうじ飴 10,584円 ・上伊那産そば 15,600円 ・びっくりちゃんメモ帳 3,000円 ・びっくりちゃんタオル 10,000円 ・ほたる祭りクリアファイル 2,000円 ・トートバッグ 5,000円 ・栗とそばのフロランタン 11,880円 ・早太郎温泉入浴剤 10,000円 (使用料) 225,090円 ○大同特殊鋼 Phenix スクエア 会場使用料 218,350円 ○高速代(小黒川IC～東新町) 6,740円 (旅費) 5名宿泊 77,810円
	グランフロント大阪 無印良品 観光PR事業	関西圏を対象として観光パンフレット配布等	183,911	(需用費) 9,741円 ○公用車ガソリン代 9,741円 (使用料) 15,370円 ○高速代 15,370円 (小黒川IC～梅田往復) (旅費) 158,800円 5名宿泊(2泊3日) 158,800円
	伊那谷北部 たびフェア	中京圏を対象として観光パンフレット配布等	25,133	(需用費) 6,653円 ○公用車ガソリン代 6,653円 (使用料) 9,180円 ○高速代 9,180円 (小黒川IC～東新町 往復) (旅費) 9,300円 ○駐車場代 9,300円
	伊那フェアIN新宿2025 (3/20-21)	首都圏を対象として観光パンフレット配布等	180,931	(需用費) 100,031円 ○ワイン・シードル紹介 チラシ印刷費1,000枚 92,950円 ○ガソリン代 7,081円 (使用料) 11,000円 ○高速代 11,000円 (小黒川スマートIC～初台 往復) (旅費) 69,900円 ○宿泊4名 69,900円

	大型モニターを購入	イベントでのPR用大型モニターの購入	183,348	(需用費) 183,348円 ○55インチワイド4k液晶ディスプレイ 73,920円 ○折り畳みスタンド 55,132円 ○HDMIケーブル 3,707円 ○ワイヤレスレシーバー 14,465円 ○ワイヤレススピーカーフォン 36,124円	
	合 計		1,817,425		
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	パンフレット配布数		3,400部	3,100部	<input type="radio"/> 達成 <input checked="" type="radio"/> 一部達成 <input type="radio"/> 未達成
	アンケート回収数		1,500枚	1,536枚	
	PRイベントを通じてアンケートを行った結果、上伊那を訪れたいと回答した人の割合		7割以上	成果なし	
事業実績・成果	<p>○7月26日、27日 はままちプラス(浜松市)で開催 三遠南信自動車道の開通を見据えて、南信州地域振興局と連携しイベントを実施。当課主催で浜松市でのイベントは初めてであったものの、パンフレット配布及びアンケート回収は600を超え、また両地域の特産品のガラポンも非常に好評であった。</p> <p>○9月6日、7日 サカエチカ(名古屋市)で開催 同会場でのイベントは今回で3回目 地下通路での開催であり、人の流れも多いことから、できるだけ歩行者の目に留まりやすいようにガラポンの景品当選時やアルクマの登場の際にはベルを鳴らすなどの工夫を加え、アンケート回収もパンフレット配布も1,500を超えるものとなった。</p> <p>○11月8日、9日 グランフロント大阪無印良品(大阪市)で開催 宮田村と連携して実施。関西圏での唯一のイベントであり、また無印良品での開催であったことから多くの来場者を集めることが出来た。パンフレット600部、ノベルティ1,000個を配布したが、来場者と上伊那地域について話す機会を多く設けた。</p> <p>○2月6日 中日ビル(名古屋市)で開催 上伊那北部三町村と連携し実施。上伊那地域と名古屋市の近さをPRしながら、市町村のパンフレットを活用して来場者に直接上伊那地域の魅力をPRすることに重点をおいた。パンフレット100部、ノベルティ300個を配布。</p> <p>○3月20日、21日 サナギ(新宿区)で開催 伊那市と連携して開催。首都圏で唯一の開催であり、パンフレット200部、ノベルティ700個を配布。パンフレットを活用し、来場者と話をしながら上伊那地域の魅力を伝えることに重点をおいた。</p>				
今後の方向性	パンフレットの配布やアンケート回収数を主眼とするのではなく、パンフレットを使いながら来場者との会話の時間を多く設け、直接的に地域の魅力を伝えていくようにイベントのやり方をシフトさせていくことが必要。				

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和8年4月28日

提出区分	実績	整理番号	15	課題区分	C
横断的な課題	移住・関係人口の増加に向け、人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり				
地域重点政策	人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり				
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属
事業名	女性・若者を対象にプロスポーツ等活用した地域の魅力発信			所属	企画振興課、商工観光課
				電話	0265-76-6801(企画振興課)
				E-mail	kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp

上伊那地域振興局

事業概要等	目的 (目指す姿)	女性・若者を対象にプロスポーツ等活用した地域の魅力発信により交流の促進を図る。			
	現状と課題	バレーボールのSVリーグに参加するVC長野トライデンツは南箕輪村をホームタウンとしているが、公式戦には多くの観客(若者・女性の割合が高い)が訪れていることから、上伊那の魅力を発信する素材となる可能性がある。 そこで、リニア開業後を見据え、中京圏を中心に観光PRを行うとともに、県内ホームゲームや合庁内でPRを行い、上伊那の知名度向上を図る。			
	内容 (変更後の内容)	<ul style="list-style-type: none"> ○VC長野トライデンツとキックオフイベントの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・日時:10月14日(火) ・場所:伊那合同庁舎 講堂 ○公式戦での応援 <ul style="list-style-type: none"> ・日程:12月27日(土) ・場所:エア・ウォーターアリーナ松本 ・VC長野トライデンツのホームゲームに応援参加。 応援時にはアルクマ等(アテンドは法被を着用)を使用する。 ○フードドライブ活動 <ul style="list-style-type: none"> ・日程:12月27日(土) ・場所:エア・ウォーターアリーナ松本 ・上伊那企業KOAが主催するフードドライブ活動にアルクマを使用し、ブース等で啓発。 ○観光PRでVC長野トライデンツのPR ○その他、県の啓発活動へ協力要請等 			
事業期間	R7.5月	~	R8.3月		

(単位:円)

事業費等	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考
	キックオフイベント		13,200	・記念品等13,200円(需用費)
	公式戦でのアルクマ応援		5,030	・高速代 3,140円(使用料)
				(小黒川IC⇄松本IC 往復)
				・法被クリーニング代(役務費) 1,890円
	合計		18,230	

指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	VC長野トライデンツ啓発回数		5回	2回	<input type="radio"/> 達成 <input type="radio"/> 一部達成 <input checked="" type="radio"/> 未達成

事業実績・成果	【実績】	<ul style="list-style-type: none"> ・10月14日のキックオフイベントを開催し、VC長野トライデンツの選手3名にご参加いただいた。 ・庁内の約50名の職員を対象に、チームの特徴やバレーボールの魅力について直接ご紹介いただき、プロスポーツへの関心喚起を図った。 ・アルクマ応援については3回計画していたが、2月の衆院選の影響により残り2回を中止することとなったため目標達成には至らなかった。
	【成果】	<ul style="list-style-type: none"> ・キックオフイベント参加者を中心に、多くの職員が開幕戦の観戦に訪れ、イベントと試合観戦を通じて、チームへの愛着や応援意識の向上につながった。 ・目標達成とはならなかったが、VC長野トライデンツ、KOA(株)主催、長野県協力のフードドライブイベントと連携してアルクマ応援を実施し、多くの来場者とともにチームを応援する機会を創出することができた。

今後の方向性	今後も行政啓発等で関係を深めていく。
--------	--------------------

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	16	課題区分	C	令和8年3月30日		
横断的な課題	移住・関係人口の増加に向け、人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり							
地域重点政策	人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり						上伊那地域振興局	
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	企画振興課		
事業名	豊かな自然と農産物を活用した関係人口の創出事業				電話	0265-76-6801(企画振興課)		
					E-mail	kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp		
事業の概要等	目的 (目指す姿)	豊かな自然の中に生息する希少種のチョウ等を地域の魅力として発信し、将来の関係人口創出を目指す						
	現状と課題	<p>「ふたつのアルプスが見えるまち」として地域振興をすすめる飯島町は、米をはじめとする野菜・果実・花き等の農業産出額が上伊那郡の中でも最大を誇っている。また、「1000ヘクタール自然共生農場づくり」を目指し、極力化学肥料と化学合成農薬を削減した農法を進め、レッドリストに掲載された生物も多数生息する豊かな自然環境のなか、環境省により絶滅危惧種(絶滅危惧IB類)に指定されたミヤマシジミの国内最大の生息地でもある。</p> <p>しかし、県内における知名度は低く、人口減少や高齢化といった課題も山積する中で、飯島町で培われてきた「自然環境と共生する農業」の価値を再認識し、若手職員自らが体験した飯島町の魅力を県外にPRしていくことで、関係人口を創出していく必要がある。</p>						
	内容 (変更後の内容)	<p>・ミヤマシジミの観察や保護活動、飯島町内施設の見学等の現地体験を通じて、飯島町のPR要素を整理する。</p> <p>1 関係人口創出に向けた現地見学・意見交換会</p> <p>①日時 令和7年7月15日(火)13:00-16:00</p> <p>②場所 飯島町</p> <p>③参加人数 飯島町職員8名、県職員等9名 計17名</p> <p>④実施概要 地域資源(ミヤマシジミを含む)及び関係人口創出に向けた意見交換</p> <p>2 飯島町内施設視察</p> <p>①日時 令和7年8月27日(水)10:00-15:00</p> <p>②場所 いなかの風キャンプ場、iiネイチャー春日平、千人塚公園他</p> <p>③参加人数 関係人口創出プロジェクトメンバー</p> <p>④実施概要 関係人口創出における方向性整理のため、飯島町内施設の視察</p> <p>・上記を踏まえて、観光イベントでPRを行い、その反応を基に、関係人口増加に係る施策を提案する。</p>						
事業期間	令和7年9月			～	令和8年3月			
事業費等	(単位:円)							
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考				
	豊かな自然と農産物を活用した関係人口の創出事業	県外(愛知県名古屋市)での観光PR	61,646	<p>【実施前概算】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速料金:7,740円 ・駐車料金:2,400円 ・ガソリン代:2,706円 ・ホテル代:40,000円(10,000円/人×4人) ・食卓料:8,800円(2,200円/人×4人) 				
合計		61,646						
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況			
	施策の立案件数		2	3	◎ 達成			
					○ 一部達成			
					○ 未達成			

事業実績・成果	<p>【事業実績】 輝く農山村事業の一環として、飯島町における農業振興および地域活性化に資する取組の方向性を整理し、①集落営農組織の体制強化、②先進的農業技術の導入支援、③関係人口の創出を主軸とした提案を下記のとおり行った。</p> <p>①集落営農組織の体制強化 ・国庫事業を活用した労働力受入体制の整備、コーディネーター配置による横連携の強化、草刈作業を担う農援隊(仮称)の設置、多様なアグリビジネス創出に向けた6次産業化の再構築、さらには地域複合営農や本事業の取組を広く発信するための専用ホームページ開設等を中心とする方向性を提示した。</p> <p>②先進的農業技術の導入支援 ・町内で主要となる品目ごとに、導入可能なスマート農業技術や、生産性向上に資するデジタルツール、さらには作目転換時に有効となる技術選択肢を整理し、導入プロセスと併せて提案した。</p> <p>③関係人口の創出 ・友好都市である斑鳩町との連携強化を通じ、交流を基盤として、両町の特性を活かした体験型交流を相互に提供し、従来の年1回程度の交流を、継続的な往来へ発展させる方向性を提案した。 ・主として、歴史文化ツアーや農作業体験、農家民泊等を通じた非日常体験の提供、オンライン講座やリピーター向け援農プログラムなど、関わりを継続的に深める仕組みを示したものである。 ・さらに、将来的な「ふるさと住民登録制度」を見据え、交流者の可視化を提案した。</p> <p>【成果】 以上の提案により、輝く農山村事業の趣旨に基づき、関係人口の創出を見据えた、飯島町における将来的な農業政策の検討に資する材料を提供した。</p>
今後の方向性	今後は、町の方針および関係者との協議を踏まえ、具体化に向けた内容整理を進める。

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和8年2月9日

提出区分	実績	整理番号	18	課題区分	C
横断的な課題	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる持続可能な「まち・暮らし」づくり				
地域重点政策	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる持続可能な「まち・暮らし」づくり				
実施機関	上伊那地域振興局農地整備課		担当課	所属	農地整備課
事業名	上伊那地域の農業資産魅力発信事業			電話	0265-76-6816(農地整備課)
				E-mail	kamichi-nochi@pref.nagano.lg.jp
事業の概要等	目的 (目指す姿)	棚田、ため池の美しい風景や、施設の役割等について特集したパンフレットを増刷し、県内外への更なる魅力発信を行うとともに、管理や保全の大切さについて一層の理解促進を図る。			
	現状と課題	・扇状地や河岸段丘などの複雑な地形が多い伊那谷には、棚田やため池等の先人が築き守り続けてきた数多くの農業資産がある。 ・これらは、農業用水を安定的に供給するほか、生態系の保全や保健休養機能を有している一方、その多様な役割は十分に認知されていない。 ・また、農家戸数の減少・高齢化が進む中、これらが形成する美しい景観を次世代に残すため、その魅力や維持管理の大切さについて理解促進を図る必要がある。			
	内容 (変更後の内容)	・過年度に作成した棚田、及びため池のパンフレットが好評で、市町村や観光施設、学校等から追加配付の強い要望があることから、増刷することで更なる効果発現を図る。			
	事業期間	令和7年12月 ~ 令和8年2月			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画額	備考	
	印刷費	棚田パンフレットの印刷	51,480	31.20円/部×1,500部×1.1=51,480円	
	"	ため池パンフレットの印刷	34,320	31.20円/部×1,000枚×1.1=34,320円	
	合計		85,800		
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	パンフレットを活用した、講義等内での学生への農業資産紹介回数		2回	2回	● 達成 ○ 一部達成 ○ 未達成
事業実績・成果	・信州大学農学部への大学3年生を対象とした講義「農村整備演習」、伊那市の全中学2年生を対象に開催される「中学生キャリアフェス」での配布を通して、地域の農業資産の魅力を広く発信することができた。 ・市役所や道の駅への設置により、地域の人々に対する農業資産の認知向上に寄与した。				
今後の方向性	引き続き各種イベントや、学生を対象とした見学会や授業等での配布を通して、農業資産の魅力や施設の役割に対する理解が深まるよう継続して取組んでいく。				